【一般細菌培養 検体の採取方法】

材料	容器・検体量	保 存	採取方法
喀痰	40 喀痰容器 2~5mL以上	冷蔵	患者様に採取方法を十分に説明してください。 □腔および上気道の汚染を最小限度にとどめるために3~5回以上うが いをしてから採取してください。(歯磨き後が望ましい) 一般的に望ましいのは早朝起床後に採取された痰です。下気道感染症に おいて膿性痰や粘液性の濃い痰は起炎菌の検査に適しています。唾液性 や血液凝固物は一般に検査材料として不適です。 検査精度向上のため、喀痰のスワブでの提出はおすすめできません。
咽頭分泌物 鼻腔分泌物 副鼻腔分泌物		冷蔵 ※トリコモナス 原虫、淋菌合 査の場合は 温で保存	病変部を滅菌綿棒で強くこすり分泌物を採取し、病変部以外には触れないようにして提出してください。 百日咳を疑う場合は前鼻孔から滅菌綿棒を挿入し鼻咽腔粘液を採取してください。 ジフテリア菌の検査は偽膜を採取してください。
耳漏			病変部を滅菌綿棒で強くこすり、十分に膿を浸み込ませて提出してください。
膣分泌物			外陰部を消毒後、膣鏡を挿入し滅菌綿棒で採取してください。
外陰部	30 シードスワブ		外陰部は正常でも細菌が多数存在するため膿、苔状物を目標に材料を採取してください。
子宮分泌物			膣洗浄を十分に行い子宮膣部をよく消毒し、子宮内容採取器を用いて採取してください。
尿道分泌物			排尿後少なくとも1時間以上経過後採取してください。 男性:尿道口を消毒し滅菌ガーゼでよく拭き取った後、尿道圧搾をして分泌物を圧出し採取してください。 女性:尿道口を消毒し滅菌ガーゼでよく拭き取った後、膣を通じて尿道の圧迫とマッサージを行い分泌物を採取してください。
結膜膿分泌物			滅菌綿棒でぬぐい取り、提出してください。滅菌ガーゼ、滅菌綿球で採取された場合は、嫌気ポーターを使用してください。
開放性膿瘍		冷蔵	病巣周囲を清拭、消毒し病変部を滅菌綿棒で軽く拭って表面の膿や分泌 物を除去した後、新鮮な膿または滲出液を滅菌綿棒で採取してください。
非開放性膿瘍		冷蔵	穿刺部位を十分に消毒し、注射器を用いて空気を混入させないように注意して吸引し出来るだけ多量に採取してください。容器を検体で満たせる量が採取できない場合は嫌気ポーターに移して速やかに提出してください。
糞便	10 便検査用	室温	糞便中に膿、粘液、血液があればその部分を採取し速やかに提出してください。病原性嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターを使用してください。排泄便が得られない場合は、シードスワブキットの綿棒を肛門から約5cm挿入して十分に便を浸み込ませて培地に穿刺してください。
血液	28 カルチャーボトル 1セット20mL 好気用10mL 嫌気用10mL	室温 冷蔵保存は 不可	穿刺部位の皮膚を厳重に消毒してください。発熱の初期に検出率が高いことからこの時期に採血してください。 採血部位は通常、肘正中静脈から行ってください。(動脈血と静脈血で検出率に大きな差はありません。) 検出率の向上および検出菌が汚染菌か否かの判断のために、2セット採血が推奨されています。 2セット採取する場合は、右腕と左腕のように部位を変えて採血してください。 1回の採血量は20mLで好気用ボトルと嫌気用ボトルに各々10mLずつ入れてください。 *接種する順番について注射器で採血した場合:嫌気用ボトル⇒好気用ボトル 翼状針で採血した場合:好気用ボトル⇒嫌気用ボトル 採血量が十分でない場合:好気用ボトルを優先する血液接種後はボトルの内容をよく混和してください。

材料	容器・検体量	保存	採取方法
胃粘膜	50 ヘリコパクター培養用	冷蔵	内視鏡で採取された胃粘膜を滅菌されたピンセットでヘリコポーターに入れて、指定された線まで胃粘膜を押し込んでください。ヘリコバクターは非常に死滅しやすいため、胃粘膜を採取後のヘリコポーターは必ず冷蔵保存してください。
尿	2 滅菌スピッツ 1mL以上 (淋菌、抗酸菌を目的とする場合は10mL以上)	冷蔵 ※淋菌検査の場 合は室温保存	患者様に採取方法を十分に説明してください。(特に女性) 雑菌の混入を防ぐため尿道口を消毒し、早朝1回目の中間尿を採取して ください。 抗生剤投与中であれば、一時中止または次回投与前に採取してください。 淋菌を目的とする場合は、初尿を採取してください。
髓液 胸水 腹水 関節液	2 滅菌スピッツ 1mL以上 (抗酸菌を目的と する場合は10mL以上)	冷蔵 ※化膿性髄膜炎 を疑う場合は寒 冷にさらされな いように保温し てください。	穿刺部位の消毒を十分に行い、採取後速やかに提出してください。 嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターの使用または容器を検体で満たして 提出してください。
胆汁	2 滅菌スピッツ 5~10mL	冷蔵	□腔内を十分うがいさせ、十二指腸液ゾンデを使用し採取してください。 (A, B, C胆汁) 嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターの使用または容器を検体で満たして 提出してください。
カテーテル 先端	2 滅菌スピッツ 先端部分5~6cm	冷蔵	抜去前に刺入部周囲の皮膚を十分に消毒してください。 カテーテルの体外側を上方に保持しながら周囲の皮膚に触れないよう滅 菌ピンセットでカテーテルを引き抜き皮内走行部〜血管内先端部までを 無菌的に切り取り、滅菌容器に入れてください。 長いものは皮内走行部と血管内先端部の5〜6cmをそれぞれ無菌的に切 り取り滅菌容器に入れてください。
皮膚 爪 毛髪	2 滅菌スピッツ	室温	病変部位を70%アルコールで清拭してください。 皮膚:病変部位の皮膚をピンセットで掻き取り採取してください。 水疱は疱膜を切り取り採取してください。綿棒での採取は避けて ください。 爪 :感染部をハサミで切り取り提出してください。 毛髪:毛髪を抜き、皮膚病変部の角質層を掻き取り採取してください。

喀痰の採取法

①採取前に歯磨き、うがいをします。



③鼻から息を吸います。(ゆっくりとおなかを膨らませる)

③~④を4~5回繰り返す

④口をすぼめて、息を吐きます。(ゆっくりとおなかをへこませる)

⑤大きく深呼吸した後、 強く咳ばらいをします。

⑥なるべく多くの喀痰をとります。



血液培養採血時の皮膚の消毒方法

①血液培養ボトルのプラスチック キャップをはずします。



②アルコールでゴム栓部分を消毒します。



③採血部位をアルコール綿で広範 囲に消毒します。 皮脂や汚れを取り除き、消毒効 果を向上させます。



④0.5%以上のクロルヘキシジンアルコールまたは10%ポピドンヨードを塗布し、作用時間を十分に保ちます。クロルヘキシジンアルコールは30秒、ポピドンヨードは2分作用させます。



⑤採血を行います。原則的に異なる2ヶ所から1セットずつ採血 します。



⑥ボトルに適量の血液を注入します。好気用ボトル、嫌気用ボトル、嫌気用ボトルに8~10mLが適量です。注入後は、ボトル内で凝固しない様に静かに転倒混和して下さい。



便ヘモグロビンの採取法



嫌気ポーターへの採取法

A. 液状検体の場合(胸水、腹水、尿、穿刺液など)



B. 固形状検体の場合 (便、膿、組織など)

